



栃木県市町村保健師業務研究会

保健師だより

発行
栃木県市町村保健師業務研究会
平成30年3月1日
第11号

会長挨拶

栃木県市町村保健師業務研究会会長 平石 紀子（宇都宮市）



早春の息吹身に染む今日この頃、会員の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

日ごろより、本会の運営につきまして、ご理解・ご協力をいただき深く感謝申し上げます。

さて、自治体職員の人員削減が進む中、平成29年度当会の会員数は480名となり年々増加しております。これは急激に変化する社会状況の中で、複雑多岐にわたる健康課題に保健師として果たすべき役割や期待が増大しているからであると思います。

このような中、現在、各市町では医療・介護・予防・生活支援・住居の5つの視点と自助・互助・共助・公助という4つの仕組みによる地域包括支援システムや、さらに地域包括ケアの理念を普遍化し、高齢者のみならず、障がい者や子どもなど生活上の困難を抱える住民が地域において自立した生活を送ることができるための「地域共生社会」という考え方で、地域を「丸ごと」支える包括的な支援体制を構築し、切れ目ない支援の実現に向けた検討がなされていることと思います。

今年度、第1回研修会の講師としてお招きした大分県保健福祉部の藤内修二先生からは、地域包括ケアシステムの推進は超高齢社会において住民の安心確保のために避けて通れない取り組みであり、市町村の「覚悟」が問われているという話がありました。健康づくりから介護予防、さらには「看取り」まで包括的に取り組む中で、関係機関との連携に加え住民の主体的な参画が必要になるが、保健師の強みは関係機関をつなぐ力に優れていること！保健師は地域住民に寄り添いながら地域の「めざす姿」を描く。「めざす姿」は住民の望む姿とは限らないが、科学的根拠に基づいて対象者や地域将来を予測し、より良い将来を実現するために現在の生活について住民に提案する保健師の役割は重要であるとのことでした。

一方、全国保健師長会の調査では、この地域包括ケアシステムの構築に向けて高齢分野にいる保健師の関わりはあっても、ヘルス部門の保健師が関わっていない自治体が多いという実態も報告されています。もちろん、平成30年4月からは「第三期特定健康診査・特定保健指導」が始まり、健康増進計画に基づいた保健事業の推進、母子保健分野では子育て世代包括支援センターの円滑な推進など、煩雑な業務に追われている現実や、所管課から情報が全く入ってこないなど課題はたくさんあると思います。しかし、私たちは常に社会の要請に合った活動を展開していけるよう社会情勢をいち早くキャッチし、変化に即応した専門性の高い保健活動を実践できることが肝要であると痛感いたしました。

今後も、当会が市町保健師の人材育成やスキルアップに一翼が担えるよう、役員一丸となって本会の活動の充実と発展に向け取り組んでまいりますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

《調査研究班》

調査研究班 田中 圭子（高根沢町）

調査研究班では、市町保健師の資質向上をはかり、地域住民の健康と福祉に寄与することを目的に調査研究を実施することになりました。平成21・22年度に実施された「事業の多様化・分散配置における市町保健師の在り方に関する調査」をもとに、保健師活動の変化や分散配置の現状、現在保健師が抱える課題等について把握し、今後の保健師活動の在り方等について考察していきたいと考えています。

そして、私達保健師が「元気になる」要素を見つけていければと思っています。

お忙しいところアンケートのご協力ありがとうございました。



《研修・広報班》

研修・広報班 安倍 亜紀子（栃木市）

研修・広報班では、県内市町保健師の資質の向上を目指すとともに、会員の皆様がいきいきと保健師活動を実践していただけるよう、研修会を企画しています。

地域保健を取り巻く環境が大きく変化していく中で、新たに保健師に求められる地域包括ケアシステムの推進や、日々の活動の原点ともいえる地区診断について、そして個々の保健師としての能力の獲得に向けた体制づくり等、今年度は多岐にわたる内容に取り組むことができました。多くの皆様にご参加いただき、心より感謝申し上げます。

次年度も皆様に参加してよかったと思っていただける研修会となるよう、役員一同頑張りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



◎第1回研修会（平成29年5月22日）



第1回研修会は、「地域包括ケアシステムの推進に向けて～保健師が大事にすべき視点とは～」と題して、大分県福祉保健部参事監兼健康づくり支援課長 藤内修二氏より講話をいただきました。

総会と同日開催の研修のため、高齢部門のみでなく様々な分野の保健師が参加していたということで、講師の機転により、前半は地域包括ケアシステムや地域ケア会議等の高齢者関連から、後半は子育て世代包括支援センターやベリネイタル・ビジット（育児等保健指導）事業から広がったヘルシースタートおおいた推進事業等の母子関連から、大分県での事例を交えて様々な角度から保健師の役割をお話いただきました。

地域包括ケアシステムが目指すものとして「時々医療、時々介護、時々就労」という言葉を紹介いただき、その人がどのような生活がしたいか、どうすれば人生を豊かにできるか本来の“自立支援”の意味を改めて確認

できました。演題は高齢者が中心の内容ではありませんでしたが、どの分野に配属されていても、保健師は関係機関、人と人との「つなぐ」役割であり、地域住民に寄り添いながらも科学的根拠に基づき将来を予測し、よりよい将来を実現するために提案していく視点というのは保健師活動の本質であると初心にかえることができた研修でした。



参加者からは、「幅広い話を聞けて良かった」「保健師はゆりかごから墓場までの仕事だと実感した」などたくさんの感想が寄せられ、行政保健師として覚悟しなければならないと各業務へのモチベーションが高まる研修となりました。

◎第2回研修会 (平成29年7月10日)

第2回研修会は、「わが町の保健師人材育成指針の作成に向けて～求められる能力と職場での体制づくり～」と題し、前 島根県立大学看護学部准教授、島根県保健師人材育成トレーナー 永江尚美氏より講話をいただきました。

専門職としての保健師と自治体職員としての保健師に求められる能力を踏まえ、自治体保健師の標準的なキャリアラダーについて、活動領域毎に、レベルに応じて求められる能力を分かりやすく解説していただきました。その上で、職場での体制づくりについて、以下のような説明がありました。

“保健師を育てるには日々の話し合い、助言、保健師間での共通理解等を通じた現場のOJTが根幹となる。現場OJTを効果的に実施するために、環境、組織力、人を育てる風土が大切。組織全体で取り組む人材育成としては、目指すべき保健師像や人事育成の方針・体制等、保健師間の共通理解があり、それにより「保健師の専門性は？」と問われた時に、みんなが同じように答えられるようになっていくことが望ましい。”

そして最後に、「自治体保健師としての責任と向き合う姿勢を育てよう」と以下のメッセージがありました。

- ・新任保健師：住民、地域関係者と向き合う → 地域と向き合う
- ・中堅期保健師：関係機関と、団体組織と向き合う → 社会資源の活用と創出と向き合う
- ・管理指導者：後輩と、上司と、関係各課と向き合う → 自治体組織と向き合う

参加者からは「人材育成指針の重要性は分かっているが、地域包括ケアシステムの構築など日々の業務を実施することに精一杯で、後回しにせざるを得ない」という意見もありましたが、「自分の置かれている立場でどんな能力を必要とされているか、改めて確認できた」「わがまちの保健師として、どうあるべきか共

通認識することの重要性を再確認した」など、たくさんの感想・意見が寄せられました。



◎第3回研修会 (平成29年12月8日)



第3回研修会は、「今こそ地区診断～健康課題『見える化』へ」と題し、栃木県保健福祉部健康増進課 副主幹 金子敬子氏より講話をいただきました。

県・市町の既存の統計データと生活習慣アンケート調査結果を地図や図表にして健康度の見える化を図り、データに基づく効果的な健康づくりが大切である。また、健康課題を見える化する事で、住民や健康づくり対策に関わる人材・組織同士で課題共有することができ、健康課題解決のために動き出すきっかけになるとのお話をいただき、改めて地区診断の大切さを実感しました。

上記の講話の後、各市町の保健師間でグループに分かれ、①地区診断について、自分の地区ではどのように行っているか ②『見える化』事業をどのように活用できるか、について情報交換を行いました。



最後に、「健康課題共有のためのシート作成」と題して、大田原市保健福祉部健康政策課 総括主幹 榎本紀子氏より事例発表がありました。

保健師の分散配置がすすみ、大田原市の健康課題の共有・優先度決定が全体のものとなっていない中で、統括保健師人材育成プログラム研修をきっかけに、健康課題共有のため1枚のシートを作りあげ、活用していくプロセスの発表でした。

参加者からは「すでに把握しているデータや課題を見える化し、職員間で共有させていく事がまず大切」「保健師が健康課題の共有をし、健康課題解決にむけて事業を展開できることはすばらしく、参考になった」「忙しいから保健師全体で課題を共有する時間がとれないではなく、時間をつくらなければならない」など、たくさんの感想・意見が寄せられ、明日への保健師活動の活力になるような満足度の高い研修になりました。

研修会参加支援のご案内

今年度も日本公衆衛生学会などの研修会参加に際し、負担金や旅費の支援を実施しました。次年度においても支援を予定しておりますので、ぜひご活用ください。



編 集 後 記

先日、研修会で セントルイス大学看護学科 Lee SmithBattle 氏の講演を聞く機会がありました。

そのお話の中で Lee 氏は、保健師の活動について以下のように話されていました。

We have done so much with so little for so long that we are prepared to do everything with nothing.
“私たちは何も持たずにすべてに対応する準備をし、長年にわたって少しずつ多くのことを行ってきた”

日々の活動の中で私たちは、自分の経験とスキルのみを頼りに、様々な問題に立ち向かっています。でもそこには、少しずつ歩んできた先輩たちの礎があり、助けてくれる仲間たちがいます。今の私たちの活動が、いつか過去の歩みとして語られるとき、胸を張っていられるよう、頑張りたいと思います。

(研修・広報班役員一同)